

花博への大動脈・地下鉄鶴見緑地線には いまなお男たちのロマンが脈打っている



大阪市交通局
建設技術本部計画部長
(当時 技術監兼土木課長)
佐野 寛氏



関西高速鉄道株式会社
建設部長
(当時 蒲生建設事務所長)
大倉 利武氏



大阪市交通局
建設技術本部計画部
計画課長
(当時 鶴見建設事務所長)
葛野 恒夫氏



大阪市交通局
建設技術本部建設部
土木課長
(当時 鶴見建設事務所長)
西澤 勝巳氏



大阪市交通局
建設技術本部建設部
土木課長代理
(当時 蒲生建設事務所長)
齋藤 裕靖氏

「国際花と緑の博覧会」の足としてその成功を支えたのが、開幕より一足早く開通した地下鉄・鶴見緑地線です。数々の厳しい施工条件をクリアするために地中深くで展開された汗と感動のドラマを、建設の中枢として関わった5人の方に当時を振り返りながら語っていただきました。

3年半で超スピード開業、 花博への道

—— まず最初に自己紹介からお願いします。
佐野 私は、当時、技術監兼土木課長として、この地下鉄工事の施工計画、工事の発注、工事中の安全問題および工事の検査を担当して参りました。

葛野 私は、ちょうどこれから本格的に現場が始まろうという昭和62年4月から2年間、現場の事務所長として務めさせていただきました。

西澤 鶴見緑地線の路線計画、施工計画を担当し、開通までの最後の1年間は、仕上げ工事等の事務所長をしておりました。

大倉 蒲生建設事務所の所長ということで、最初から最後まで、と言いたいところですが、開通の2ヵ月前に異動があり、開通式は交通局で迎えることができませんでした。しかし、最初からほぼ最後までたずさわることが出来、非常に幸せな所長をさせていただいたと思っています。

齋藤 当初はJR環状線等の重要構造物に工事で与える影響調査や協議等にたずさわって、62年秋から蒲生の副所長として現場を担当しました。

—— 鶴見緑地線は従来の地下鉄と比べ、いろいろな工夫があるようですが。

佐野 まず、小型の中量輸送の地下鉄で、リニアモーター駆動方式を採用しているのが、従来のものと違う点です。それから、地下に検車場と車庫を設けたことです。さらに、花博の間に合わせるために、約3年半という非常に短い工期で開業にこぎつけたということ。また、京橋、鶴見緑地駅には駅前広場を地下1階に設け、あまり深さを感じさせない駅にしたということ。以上、この5点が大きな特徴かと思っています。

—— 工期が非常に短かくて、花博の開幕に間に合わせるのはいへんだったと思いますが。

佐野 技術的には、駅舎はオープンカット工法、



駅間はシールド工法という2つの工事を一つの工区にして、オープンカットで遅れた分はシールド工事で取り返してもらうということで進めました。本来なら5、6年かかる工事なのですが、今度の場合、とにかく花博の間に合わせようじゃないかと沿道の市民、関係官庁、警察など官民一体となって協力していただき、やっと間に合ったというのが実情です。

沿道住民の協力が 成功の大きな要因だった

—— たいへん厳しい施工条件だったようですが、最も頭を悩ませられたことと伺います。

葛野 リニアモーターは我国初の導入ということで、開通6ヵ月前くらいには試運転をしなければなりません。そのためのトンネルを作るのに、1年間で50万立米ほどの土を取ってしまわないかということで、延べにして1日600台くらいのダンプカーが集まってくるわけです。それが1、2分間隔で出入りするものですから周辺市民から苦情が出る。市民の方と何回も話し合いをしてなんとかクリアできましたが、これがやはり一番印象に残っていますね。

大倉 蒲生事務所の受け持ち区間の内、京橋から蒲生4丁目まで1.5kmと非常に長いシールドがありました。民家の直下を通過し、国道1号には共同溝が縦断に埋設されており、また、環状線、京阪、JRの貨物線が横断しているため一番難しいところであり、ここが成功しないと全線開通はありえないと言われておりました。

このプレッシャーのなかで、まず第一に目標としたのは事故を起こさないということ。それともう一つ、住民の方々の理解と協力を得るということでした。

—— 工事が始まるとすぐ沿道説明会を開きましたが、そこで問題になったのが、公園内や街路樹として植えられている桜の木でした。この桜は大部分が沿道の方々の寄付によるもので、非常に大事にされてきたものです。したがって何度も会議を重ねた結果、できるだけ地元に残すという方向で皆さんのご理解をいただき、桜ノ宮小学校と地元の公園に移植しました。残りは鶴見緑地に移植しております。

葛野 鶴見の方では工事の前に説明会をいたしましたが、工事が始まるとどうしても騒音・振動などの苦情が出てきました。そういう苦情にはすぐに対処するとともに、現場を実際に見ていただき、どのように騒音・振動対策をしているかをご理解いただいたことが、住民協力を得られた大きな要因の1つだと思っています。

—— 職員同志のコミュニケーションはどのようになっていましたか。

齋藤 日常的にはどうしても現場が散らばりま

すので難しいのですが、いわゆるノミネーションですね。月々の工程会議のあと、京橋で相当回数やらせてもらいました。(笑)

—— 鶴見緑地線の利用客に、ぜひここを見てほしいと思われるところはどこでしょう。

西澤 改札口を入ったところに各区の花をあしらった美しい壁画がありますが、これは皆さんに喜んでいただけたと思います。それと、リニアモーターによる駆動方式で、電車がいかにもスムーズになめらかに走っているかを体験していただきたいですね。トンネルも非常にきれいです。短い工期でこれだけきれいに造ったということ、ぜひ見ていただきたい部分です。

健康管理は まさしく仕事だった

—— ところで、工事中のご自身の健康管理はどのようになっていましたか。

齋藤 精神的なストレスのほうが大きかったので、ちょっとアルコールを入るとか…。肉体的には毎朝のジョギングが効果があったようで、風邪もひかずに過ごせました。

大倉 えらぶた言い方をさせていただきますと、仕事を糧にやってきたよ、というところでしょうか。(笑) この工事に入って風邪をひいているゆとりもありませんでした。まさしく健康管理は仕事であったなと思います。

佐野 私は、もう10何年来、毎朝30分くらい体操やジョギングやゴルフの素振りを行っています。

葛野 ひとつだけ意識的にしたことがあります。今日の問題は、ハイ、これでおしまい、あしたはあしたの風が吹く、という気分転換です。これが習慣となって、結果的にはよかったですね。

西澤 最後の1年間は好きなゴルフにも2、3回しか行けませんでした。現場を歩き回って足腰が鍛えられたせいか、スコアは落ちていませんでした。風邪もいっさいひかず、実に健康的な期間でした。



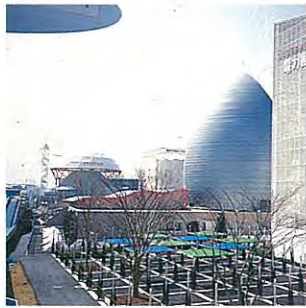
家族に見放された(?) 3年半

— 工事期間中、ご家族の方の反応は?

佐野 地下鉄工事関係のニュースがよくテレビに出るんですが、それをビデオに撮ってくれたり、また、新聞やラジオで見聞きしたことを話してくれたりしまして、それはたいへんありがたいと思っていますが、そのほかには特にコミュニケーションがないんですね。私以外はみな女で、子供も大きいし、テレビも見る番組が違うし、気が付いたらまわりには誰もいない。どこにいても一人ぼっちかなという気がしましたね。

大倉 工事が始まったとき、上の子が小学5年、下が2年と小さかったので、親父がおろうとおるまいと意に介さなかったのですが、女房の方が意に介しましてね。早いとこあきらめてくれればいいのですが、なかなか亭主離れができません。(笑)

齋藤 現場にいた頃は子供がちょうど受験勉強中でした。接触する機会が少なかったので放ったらかしにしてましたが、それが却って子供にはよかったかなという気がしています。



100年先まで残る デカイ仕事に魅せられて

— この業界に入れたきっかけについてお伺いしたいのですが。

齋藤 昭和28年でしたか、13号台風で私の村が山津波にやられてましてね。消防団に入っていた親父が救助に出かけたままなかなか帰ってこない。その時、子供心に災害をなくしたい、と思ったのが表向きのきっかけと言えるでしょうか。

大倉 大学受験の頃は、ちょうど日本が新幹線など土木的に大きな仕事をやりだした時代でした。電気科を卒業し、国鉄に勤めていた親父が、これからは電気より土木の方がいいと助言してくれまして、それで土木を選択したわけです。卒業するときには自分でも何か大きな仕事をしたいという気持ちが強く、それなら大阪市だということで、中でもぜひ交通局にと希望しました。

佐野 私は2年目の大学受験で確実なところを狙って土木科に入りました。大阪市に入ってよかったと思うのは、大きな予算を使って、しかもいろんな形で関与できることです。造る楽しさをしみじみと味わっていたと思います。

葛野 受験時代に黒四ダムの記事を見たのがきっかけで土木に入りました。就職活動ではいろいろ回りましたが、たまたま交通局に寄ったとき、非常に活気にあふれている雰囲気を見て、



ここだと決めたわけです。

西澤 子供の頃からダムの力強さに憧れていましたので土木を選びました。就職も電力会社に入った先輩に話を聞きに行ったところ、単身赴任もあるダムがいいのか、都会のネオンがいいのかと言われ、真剣に考えましてネオンサインを選びました。(笑)

— お子さんにはご自身と同じ道を歩んでほしいと思われませんか。

大倉 電気屋だった親父が、土木の方がいいよと指導してくれたように、私も息子が大きくなるまでに勉強して指導できるよう、頑張りたいと思います。ただ、私が一端を担って造った物が10年先、100年先まで皆さんの役に立つものであるように、やっぱり世の中の役に立つ仕事についてほしいという希望はあります。

齋藤 上の息子は違う道に行きそうですが、下の息子はどうなるかな。親父の後ろ姿を見て同じ道を選んでくれたら、という気はありますね。3Kという表面的なことで判断するのではなく、世の中に役立つものを残す喜びということをよく考えて、自分の道を選んでほしいと思います。

一番電車の乗客は、 男たちの喜怒哀楽だ

— お仕事の喜びというのは、具体的にはどういう場面でお感じになりますか。

齋藤 今回の現場で本当に感激したのですが、地中を相当長い距離潜って来るシールドを、もうすぐ来るかと1週間も前から待ち構え、いよいよ目の前に顔をだした瞬間、業者の皆さんといっしょになってバンザーイと叫びました。ともに苦勞を分かちあい、その苦勞が報われたときの喜びですね。つくづくありがたい仕事をさせてもらっているなと思いますね。

大倉 土木工事というのは土の中でやるものだから、何か起こるかわからない。検討に検討を重ね、最終選択をする。今回のシールドのようによくいったときはうれしいのですが、予想もしなかったときに事故に合うと、これはもう試練ですね。こんな喜怒哀楽を繰り返しながら1つの現場を終え、一番電車が走る。この瞬間がやっぱり最高に喜びを感じる時ですね。

佐野 ひとつの仕事のなかにも節目がいくつかあり、その節目節目で皆で寄って乾杯しながら、最終的には一番電車が走るという喜びで最後のとどめ、ということになるんだろうと思います。こうして造ったものが形として長く残り、かつ人々の役に立つ。これがまた喜びとしてはね返ってくるように思います。

葛野 私は一番電車が走るのを見るのは、喜びよりも寂しさを感じるんですけどね。(笑) もちろんうれしいんですが、心のなかにポッカリ穴



があいたような、複雑な気持ちです。

西澤 3月20日の開通日にさっそく乗りましたら、満員のお客さんと、立派な地下鉄ができたねとか駅がきれいねとか話してて。そんな話が聞きたくて、2往復しました。(笑)

女性が来てくれれば 男はもっと頑張るよ

— 女性の社会進出が進っていますが、土木界への女性の進出についてはどう思われますか。

佐野 建設会社から女性の営業担当がお見えになったり、鶴見緑地線でも女性のダンプ運転手がいたりしましたから、それぞれに合った職業に進出していく時代がもうだいぶ近づいてきていると思います。期待していますよ。

葛野 5年ほど前、上海の地下鉄建設計画に約1年間参画させて頂きましたが、上海では地下鉄建設の設計計画にはずいぶん女性がおられました。女性が活躍できる下地はあるんですから、ぜひ土木界にも来ていただきたい。

西澤 施工管理とか市民の方との折衝とか、女性の長所を活かせる場はずいぶんあります。それに、女性が来れば男性が一生懸命に頑張るでしょうからね。私もおおいに期待しています。

大倉 女性が土木業界に進出してくれることで、3Kといわれる劣悪な状況が改善され、土木のイメージもよくなる。そんな大きなインパクトになってくれるという意味で大歓迎です。

齋藤 沿道説明会では女性の目で見えた意見というのがけっこう出てきます。そういう意見を尊重するためにも、土木業界での女性の活躍を期待します。それと個人的理由ですが、女性が来ると、また変わった人生が歩めるかなと。(笑)

“夢”地下鉄は もう動き出した?

— 大きな仕事を成し遂げられたばかりですが、今後の夢についてお聞かせください。

佐野 サンダーバードという空想映画にモグラのように土を掘っていく機械がありましたが、周りの土を圧縮しながら焼結させて進んで行けたら、大深度地下鉄なんか簡単にできるのではないかと、そんな空想をしています。

葛野 先輩が造られた地下鉄御堂筋線、これは世界に誇れる立派な地下鉄だと思います。我々もその伝統を受けつぎ、ローカル色豊かな、これが大阪の地下鉄だというものを目指していきたいですね。

西澤 地下鉄駅のデザインですが、建築仕上げだけでなく土木構造物でも、たとえばアーチにするとか思い切ってやりたいですね。プライベートでは、家族での海外旅行で、大陸の大自然



や古い文化に触れることです。

大倉 大阪市の地下空間は、いまは先に来た人が好きなのところを使っているという状況で、たとえばここに地下鉄を通せばいいんだけどと思っても下水道があったり、やむなく深いところへ行かざるをえない。利用客にはたいへん不便なものになります。ですから、地下空間利用を一元的に整理統合できる組織づくりの実現と人間優先の地下鉄造り、これが私の夢です。

齋藤 大阪にもドーム球場を、というのが話題になっていますが、ドーム球場へ行く地下鉄を造りたいですね。そしてビールを飲みながら野球観戦をしたい、こんなのが私の夢です。

若者よ、造る喜びを いつくしんでくれ

— 最後に、近畿の未来を担う若い人々への提言をお願いします。

佐野 大阪市を楽しい街にするために、若い人にどんどんアイデアを出してもらいたいですね。

葛野 この頃の学生さんには物を造る業種は人気がないようですが、物を造っていくのがやはり社会の原点だと思いますので、そういう気持ちをいつくしんでほしいですね。

西澤 若者が遊びに費やすエネルギーは、ある意味で活性化の源です。それを社会の発展にもおおいに活かしていただきたい。

大倉 特に若い人たちは、ラクして金儲けしたいという傾向があるようですが、こういう風潮に惑わされず、地道に自分の人生を考えてほしいと思います。

齋藤 汗をかき、苦勞した結果として喜びはあるのだと思います。ですから、苦勞を避けず、どんどんチャレンジしてほしいですね。

— ありがとうございます。皆様のもますますのご活躍、期待しております。

